

肺癰

寫之、肺氣不足、則少氣不能報息、耳聾、ノムトカハ、乾、是爲肺氣之虛也、則宜補之、

〔醫心方十五〕治肺癰方第十三

病源論云、肺癰者、由風寒傷於肺、其氣結聚所成也、肺癰之狀、其嗽、胃內滿、隱々痛而戰寒、又肺癰有膿、而嘔者、ムカク、不須治、其嘔也、膿止自愈、

肺痿

〔醫心方十三〕治肺痿方第十五

病源論云、肺主氣、爲五藏土蓋、風邪傷於府藏、而血氣虛弱、又因勞役、大汗出、或經大下而亡津液、津液竭、絕、肺氣擁塞、不能宣通、諸藏之氣、因成肺痿也、其病、欬唾而嘔、乾沫而小便不利者、難治、

勞瘵

〔增補下學集上二〕勞瘵ラウサイ 虛勞キョウラウ

〔鹽尻十三〕一勞瘵、勞瘵といふ病は、醫書に往々あり、勞瘵と呼は、何の書に出しと問に、分明に答る、醫師なきにや、甄權が本草の欬冬の條下に、療肺氣急熱、勞瘵連々不絶とあるよし、丹水子が書に記るせり、

〔時還讀我書下〕勞瘵ノ名、行餘醫言ニ甄權ヲ引タリ、先君子〇多紀元聖父ノ言ニ、證類本草ニ藥性論云、欬

冬花君主療肺氣心促急熱乏勞瘵連連不絶トアリテ、勞ノ字上ニ接シテ、欬連連トイヘルナリ、李

時珍コレヲ引テ乏ノ字ヲ刪タルヲ、太冲ノ誤取タルナリ、勞瘵ノ稱ハ嚴氏濟生方ヲ以テ始トナ

スベシトノ玉ヘリ、又外臺ニ治欬ノ哈法トアルヲ、太冲ハ欬哈トイヘル病名トナセリ、其陋亦甚

シ、元明ノ書ニマ、欬哈々トイヘルコトアリ、疑ベキコトナリ、

〔雜病記聞三〕勞瘵

勞瘵ハ、本名勞瘵ト云ヒ、唯瘵トモ云ヒ、或ハ虛勞トモ云ヒ、鬱症トモ云フ、勞瘵トハ、俗ニ云ヒ習ハシ來ル名也、是勞トハ、此病段々勞レテ出ル病ナル故ニ勞ト云フ、又咳トハ、此病トナレバ、必咳嗽出ル故ニ、咳ト云フナリ、瘵トハ、此病ニカ、レバ、必死シテ祭ラル、ト云フ意ナリ、此病雜病中第